

技術士第二次試験に合格して



岡 宣克

勤務先：

(株)構研エンジニアリング

橋梁部

〒065-8510 札幌市東区

北 18 条東 17 丁目 1 番 1 号

TEL 011-780-2816

FAX 011-785-1501

E-mail: nobu@koken-e.co.jp

専門：建設部門（鋼構造及びコンクリート）

1. 自己紹介

この度建設部門で合格した岡宣克と申します。しばし私の駄文にお付き合い下さい。

私は十勝の陸別町という寒いので有名な町で生まれ、高校は北見、大学は札幌と北海道内を転々としておりますが、北海道からは出る気が無い根っからの道産子です。

大学では柔道部に所属し汗を流す毎日だったので引き締まった体が自慢でしたが、椅子に座ってばかりの因果な商売に就いたため太る一方です。

健康管理もかねて、何かスポーツでもしようかなと思っている今日この頃であります。

2. 専門分野

大学（北大）では基礎地盤工学講座という所に所属し、重力式岸壁の液状化時における動的挙動を模型実験により考察しておりましたが、現在の会社に入社し橋梁部に配属されてからは、一貫して橋梁の計画・設計を行っています。（人生こんなもんです）

橋梁の中でも私が専門とするのはコンクリート構造、特に PC 上部工・橋梁下部工（橋台、橋脚）の設計及び解析です。最近ではコンクリート構造物の環境要因による劣化が問題視されているため、その補修技術・劣化予測技術や、昨年の十勝沖地震に代表

されるような大規模地震に耐える既設橋の耐震補強技術などに興味を持って取り組んでいますが、まだまだ勉強の途上です。

3. 受験動機

正直技術士という資格の存在を知ったのは入社してからでしたが、技術士という資格の重みを認識するにつけ、土木技術者として一人前と見なされるにはこの資格が必要不可欠であると思うようになりました。そのためにはまず1次試験を突破せねばと思ひ、2回目で合格しました。それから4年経過し、2次試験の受験資格が得られた年に合格できたのは、周囲の先輩技術士による指導及び協力の賜物であったと思います。

4. 最近思うこと

技術士法には技術士の定義として、「～科学技術に関する高等の専門的应用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価、またはこれに関する指導を行うもの」と示されています。物理学者 R.P. ファインマンは「科学の価値とは何か」という講話の中で、科学（技術）が持つ人間に良いことも悪いことも出来るような力を与えるが、その力をどう使うべきかという注意書きは添えられていないという本質的な性質を、仏教の諺を用いて以下のように表しています。

「人はみな極楽の門を開く鍵を与えられているが、その同じ鍵は地獄の門をも開く」

技術士とはこの鍵の行使者であり、人々を極楽の門へ導くか地獄の門へ導くかは個々人の道徳的判断及び倫理に委ねられていると私は考えます。

私に与えられた鍵の重さ及び怖さを忘れぬよう、日々精進して行きたいと思ひます。

5. 終わりに

最近登録証も届き、ようやく実感が湧いてきたところです。これから自分が北海道の技術士として何が出来ののかを模索して行きたいと思ひますので、皆様宜しくお願ひ致します。